

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-19077

(P2001-19077A)

(43)公開日 平成13年1月23日(2001.1.23)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

B 6 5 D 85/57

55/02

識別記号

F I

B 6 5 D 85/57

55/02

テーマコード(参考)

C 3 E 0 3 6

3 E 0 8 4

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-197261

(22)出願日 平成11年7月12日(1999.7.12)

(71)出願人 391013047

株式会社ハゴロモ

東京都千代田区神田須田町2-6-5 O

S' 85ビル

(72)発明者 橘 倍男

東京都千代田区神田須田町2-6-5 株

式会社ハゴロモ内

(74)代理人 100063174

弁理士 佐々木 功 (外1名)

Fターム(参考) 3E036 AA04 AA20 DA10 EA03 FA01

FB05

3E084 AA05 AA14 AA24 AB10 BA02

CA03 CC03 DA03 DB14 DC03

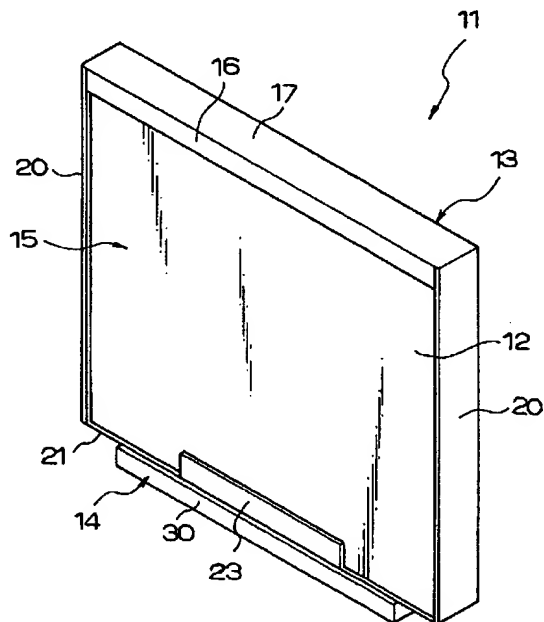
FA09 GB23

(54)【発明の名称】 ケース用のホルダー

(57)【要約】

【課題】 CDケースの取り出しがスムーズに行えると共に、不正な取り出しを防止できて防犯性に優れたケース用のホルダーを提供する。

【解決手段】 CDケース12が出し入れ可能な開口部15を正面側に有し、該開口部15の上部に垂下部16が設けられた箱形の収納容器本体13と、該収納容器本体13の下部にCDケース12の取り出しを制限するロック手段14とを備え、該ロック手段14は、板部23と係合部24とを有する上下動可能な可動部材23aと、前記係合部24の対向する面の両側に配設される板バネ25と、該板バネ25及び前記可動部材23aが納まるカバー部30とを有し、前記可動部材23aを押し上げることにより前記板部25が迫り上がると共に前記係合部24に前記板バネ25が係合してロック状態を保持するケース用のホルダー11である。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 情報記録媒体を収納するケースが出し入れ可能な開口部を正面側に有し、該開口部の上部に垂下部が設けられた箱形の収納容器本体と、該収納容器本体の下部にケースの取り出しを制限するロック手段とを備え、該ロック手段は、板部と係合部とを有する上下動可能な可動部材と、前記係合部の対向する面の両側に配設される板バネと、該板バネ及び前記可動部材が納まるカバー部とを有し、前記可動部材を押し上げることにより前記板部が迫り上がると共に前記係合部に前記板バネが係合してロック状態を保持することを特徴とするケース用のホルダー。

【請求項2】 係合部は、前記可動部材の両端部に設けられていることを特徴とする請求項1に記載のケース用のホルダー。

【請求項3】 板バネは、一枚のバネ材をU字状に折り曲げて形成したことを特徴とする請求項1又は2に記載のケース用のホルダー。

【請求項4】 板バネは、磁性をもって形成されていることを特徴とする請求項1、2又は3に記載のケース用のホルダー。

【請求項5】 収納容器本体は、透明又は半透明な合成樹脂材で形成されていることを特徴とする請求項1に記載のケース用のホルダー。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、CD（コンパクトディスク）などの情報記録媒体を収納するケース用のホルダーに関するものであり、更に詳しくは、ホルダーの内側に防犯タグを保持した状態でケースを収納すると共に、ロック手段の操作によってケースの収納状態をロック（施錠）することができるケース用のホルダーに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来、CDショップやCDのレンタルショップなどにおいては、CDなどの商品を店内から不正に持ち出されないように（即ち、万引き防止のために）、CDなどのケースに防犯タグを直接取り付けていた。この防犯タグは、店の出入り口に予め設置しておいた防犯センサーを磁氣的或いは電氣的に反応させるためのものであり、防犯タグが付いている商品が店の出入り口を通過したときには、防犯センサーが警戒音を発する仕組みになっているのである。

【0003】しかしながら、CDなどのケースに防犯タグを直接取り付けおくと、それを故意に引き剥がされたり取り外されたりすることがあった。そこで、防犯タグを内部に保持した容器にCDケースを収納してから、容器とCDケースとをロック（施錠）しておき、販売するときにカウンターでロックを解除してCDケースを購入者（お客）に渡していた。

【0004】ところが、上述の防犯タグを保持した容器は、CDケースをロックするためにシリンダー錠やタンブラー錠を使用しているので、購入者（お客）の面前で鍵を使っていちいち解錠操作をする必要があり、その操作は煩雑で能率が悪く、大量の商品を迅速に解錠するには不便であった。

【0005】そこで、出願人は前記の欠点を解消すべく、特開平9-328184号公報に開示されたCDケースの収納容器を提案している。このCDケースの収納容器1は、図9に示すように、CDケース2が出し入れ可能な開口部3を背面側に有した収納容器本体4と、この収納容器本体4の上端部に設けられ且つCDケース2の取り出しを制限する押し釘式のロック機構5とから構成されている。そして、開口部3の四隅には、収納されたCDケース2の各四隅に当接してCDケース2を保持する係止突起6a、6a、6b、6bが各々設けられている。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】この従来例のCDケースの収納容器1においては、CDケース2を取り出すときには、ロック機構5を解錠してロック部材7を後退させ、CDケース2の上端と収納容器本体4との間に隙間（CDケース2の上下移動自在な間隔）を開けてから、CDケース2を上を押上げて、開口部3からCDケース2の下端を抜き出して、次いで上端を抜き出している。つまり、CDケース2の取り出しは、ケース自体を上げ下げして下端と上端とを交互に抜き出す手順が必要であるので、スムーズな取り出しができず、結局大量の商品処理が煩雑で能率が悪いという従来例の欠点が解消しきれていない。

【0007】また、上部の係止突起6a、6a或いは下部の係止突起6b、6bの2箇所を強制的に破壊すれば、収納容器1からCDケース2を不正に取り出すことができるという欠点もある。

【0008】従って、従来例におけるCDケースの収納容器1においては、CDケース2の取り出しをスムーズに行えるようにして、大量の商品を更に迅速に処理することと、係止突起の破壊によるCDケース2の不正な取り出しを防止することとに解決しなければならない課題を有している。

## 【0009】

【課題を解決するための手段】前記従来例の課題を解決する具体的手段として本発明は、情報記録媒体を収納するケースが出し入れ可能な開口部を正面側に有し、該開口部の上部に垂下部が設けられた箱形の収納容器本体と、該収納容器本体の下部にケースの取り出しを制限するロック手段とを備え、該ロック手段は、板部と係合部とを有する上下動可能な可動部材と、前記係合部の対向する面の両側に配設される板バネと、該板バネ及び前記可動部材が納まるカバー部とを有し、前記可動部材を押

し上げることにより前記板部が迫り上がると共に前記係合部に前記板バネが係合してロック状態を保持することとを特徴とするケース用のホルダーを提供するものである。

【0010】また、前記係合部は、前記可動部材の両端部に設けられている構成としたものであり、そして、前記板バネは、一枚のバネ材をU字状に折り曲げて形成した構成としたものであり、更に、前記板バネは、磁性をもって形成されている構成としたものであり、更にまた、収納容器本体は、透明又は半透明な合成樹脂材で形成されている構成としたものである。

【0011】本発明のケース用のホルダーにおいては、収納容器本体からCDケースを取り出すときには、ロック手段のロック状態を解除して板部を下降させてから、CDケースをそのまま開口部から取り出せばよく、従来例の収納容器よりもスムーズに且つ簡単にCDケースを取り出すことができる。また、迫り上がった状態（ロック状態）の板部を不正な目的で全面的に折り取ることは極めて難しいので、CDケースの不正な取り出しを防止できる。

【0012】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態について図面を参照しながら説明する。まず、図1及び図2において、符号11はケース用のホルダーを示し、このホルダー11は、情報記録媒体を収納するケース、例えばCDケース12が出し入れ可能な箱形の収納容器本体13と、この収納容器本体13の下部に設けられたロック手段14とから構成される。

【0013】収納容器本体13は、プラスチックなどの合成樹脂材で形成されており、適度な剛性と弾性を有していると共に、内部に収納したCDケース12のジャケットなどを外部から視認することができるように透明又は半透明な材料で形成されている。

【0014】また、収納容器本体13の内部の大きさは、例えば所定規格形状のCDケース12を略ピッタリと収納できる大きさに形成されている。尚、CDケース12を余裕をもって収納するために、収納容器本体13の内部の高さ（上下方向の長さ）を、CDケース12よりも約5mm程度長めに形成してもよい。

【0015】収納容器本体13の正面側は、開放して開口部15が形成されており、この開口部15の上部に沿って所要幅の垂下部16が設けられている。

【0016】また、収納容器本体13の上部は、横長の天板17が設けられており、つまり、この天板17の正面側に沿って前記垂下部16が一体に設けられているのである。

【0017】天板17の背面側には、略正方形の背面板18が一体に設けられている。そして、この背面板18には、図1に示すように、略正方形の窓孔19が形成されており、この窓孔19から、収納されているCD

ケース12に指を宛てて押し出すのである。尚、背面板18の内側の適宜位置に、図示しない防犯タグを接着などの適宜な手段で取り付けておくのである。

【0018】背面板18の両側、即ち、天板17の両端には、縦長の側面板20、20が各々一体に設けられている。

【0019】また、背面板18の下端部には、横長の底面板21が一体に設けられており、この底面板21の両端が前記側面板20、20に各々一体に設けられている。そして、底面板21の下部には、ロック手段14が設けられており、更に、底面板21の開口部15側の端縁には、後述する板部23が上昇（迫り上がり）下降するための長溝22が形成されている。

【0020】ロック手段14は、図3から図7に示すように、前記長溝22から迫り上がり可能な板部23及び該板部23と一体的に形成されている係合部24を備えた上下動可能な可動部材23aと、前記係合部24の対向する面の両側に配設される板バネ25と、この板バネ25及び前記可動部材23aが納まるカバー部30とを有している。

【0021】板部23は、所要の幅及び長さを有する横長の板材で形成されており、この板部23の下端には、基基板26が略直角に設けられている。この基基板26は、可動部材23a（板部23）の上昇により底面板21の下端面に当接し、或いは、可動部材23a（板部23）の下降によりカバー部30の底部に当接して、各々ストッパーの役目を果たするのである。

【0022】基基板26の両端には、略柱状の係合部24が各々形成されており、この係合部24の対向する面の両側には、係合段部24a、24bが形成されている。また、左右に位置する係合部24、24間には、下部板27が設けられており、即ち、この下部板27と係合部24、24と基基板26と板部23とが一体的になって可動部材23aを形成しているのである。

【0023】板バネ25は、一枚のバネ材をU字状に折り曲げて形成され、底面板21の下端面に設けられた凸部28を挟持する状態で配設され且つカバー部30に形成された突起部31、31に支持されている。そして、この板バネ25の両方の先端部25a、25aが、前記係合段部24a、24bに係合するのである。また、係合段部24a、24bと係合した板バネ25の先端部25a、25aは、図8に示すような両方に強力な磁力（Nで表示）を有する解除装置29を用いて、ロック手段14の外部から板バネ25の先端部25a、25aを吸着して両側に拡開し、係合部24との係合を解除する。尚、板バネ25自体を磁性をもって形成してもよいことは勿論である。

【0024】以上のような構成のロック手段14は、底面板21の下部に設けられた箱形のカバー部30に納まっており、このカバー部30の底部には、長孔30a

と、この長孔30aの両端に位置する孔30b、30bが形成されている。そして、この孔30b、30b及び長孔30aを、前記可動部材23a(板部23)の上昇・下降によって係合部24、24及び下部板27が挿通する。

【0025】次に、以上のような構成のケース用ホルダー11の使用方法について説明する。まず、収納容器本体13に収納されたCDケース12は、図2に示すように、上部で垂下部16に当接し、且つ下部で迫り上がっている板部23に当接している。このとき、係合部24の係合段部24a、24bには板バネ25の先端部25a、25aが係合して、ロック状態を保持している。このため、可動部材23aを無理に下降させることはできず、板部23の迫り上がった状態(ロック状態)が保持される。

【0026】そして、CDケース12を取り出すときは、図8に示すように、両方に磁力(Nで表示)を有する解除装置29でカバー部30の外側から板バネ25の先端部25a、25aを吸着して両側に拡開して、係合段部24a、24bとの係合を解除し、指で板部23を押し下げれば、CDケース12を取り出すことができる。

【0027】再度、収納容器本体13にCDケース12を収納した場合には、カバー部30の底部から孔30b、30b及び長孔30aを挿通して突出している係合部24、24及び下部板27(図5参照)を指で押し上げて、係合段部24a、24bに板バネ25の先端部25a、25aを係合させればよい。

【0028】このように、このケース用ホルダー11は、従来例の収納容器よりもスムーズに且つ簡単にCDケース12の取り出しが可能になるので、店内でのCDの受渡業務が更に効率的に行えるのである。

【0029】

【発明の効果】以上説明したように本発明に係るケース用のホルダーは、情報記録媒体を収納するケースが出入り可能な開口部を正面側に有し、該開口部の上部に垂下部が設けられた箱形の収納容器本体と、該収納容器本体の下部にケースの取り出しを制限するロック手段とを備え、該ロック手段は、板部と係合部とを有する上下動可能な可動部材と、前記係合部の対向する面の両側に配設される板バネと、該板バネ及び前記可動部材が納まるカバー部とを有し、前記可動部材を押し上げることで前記板部が迫り上がると共に前記係合部に前記板バネが係合してロック状態を保持することによって、収納容器本体からCDケースを取り出すときには、ロック手段のロック状態を解除して板部を下降させてから、CDケースをそのまま開口部から取り出せばよい。従って、従来例の収納容器よりもスムーズに且つ簡単にCDケースを取り出すことができるので、店内での商品の受渡業務

が更に効率的に行えるという優れた効果を奏する。また、迫り上がった状態(ロック状態)の板部を不正な目的で全面的に折り取ることは極めて難しいので、CDケースの不正な取り出しを防止できるという種々の優れた効果を奏する。

【0030】更に、係合部は、前記可動部材の両端部に設けられていることによって、係合部の板バネでのロックをその両端部で行うこととなるので、板部の迫り上がり状態(ロック状態)が安定するという優れた効果を奏する。

【0031】また、板バネは、一枚のバネ材をU字状に折り曲げて形成したことによって、係合部の両側に係合する板バネを一つの部品で形成することができるので、製造コストを低減できるという優れた効果を奏する。

【0032】そして、収納容器本体は、透明又は半透明な合成樹脂材で形成されていることによって、収納したCDケースのジャケットなどを外部から視認することができるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るケース用ホルダーの斜視図である。

【図2】本発明に係るケース用ホルダーにCDケースが収納され板部が迫り上がった状態(ロック状態)の斜視図である。

【図3】ロック手段を分離した状態の斜視図である。

【図4】ロック手段の板部が迫り上がった状態(ロック状態)における正面側を示す断面図である。

【図5】ロック手段の板部が下降した状態における正面側を示す断面図である。

【図6】底面板の平面側を示す断面図である。

【図7】ロック手段の底面側を示す断面図である。

【図8】ロック手段を解除する状態を示す要部拡大断面図である。

【図9】従来例に係るCDケースの収納容器の背面図である。

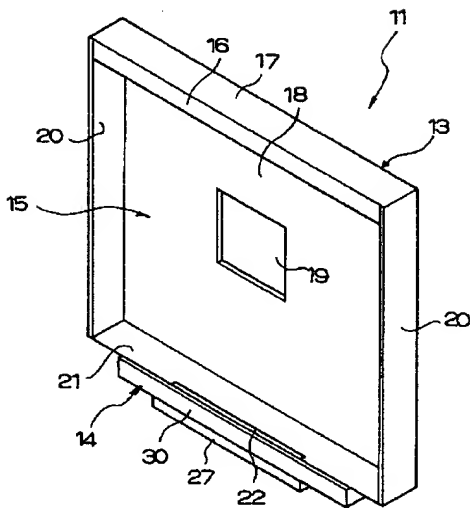
【符号の説明】

- |    |            |
|----|------------|
| 1  | CDケースの収納容器 |
| 2  | CDケース      |
| 3  | 開口部        |
| 4  | 収納容器本体     |
| 5  | ロック機構      |
| 6a | 係止突起       |
| 6b | 係止突起       |
| 7  | ロック部材      |
| 11 | ケース用のホルダー  |
| 12 | CDケース      |
| 13 | 収納容器本体     |
| 14 | ロック手段      |
| 15 | 開口部        |
| 16 | 垂下部        |

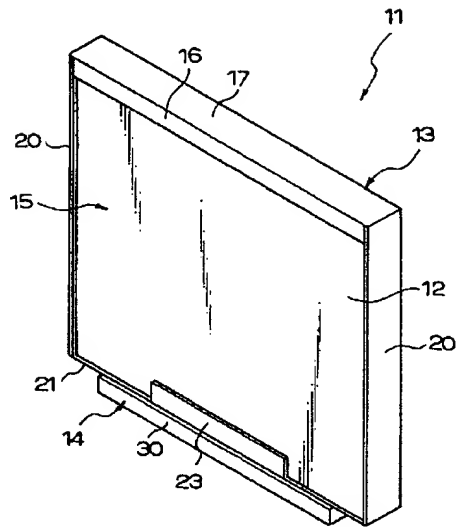
17 天板  
18 背面板  
19 窓孔  
20 側面板  
21 底面板  
22 長溝  
23 板部  
23a 可動部材  
24 係合部  
24a、24b 係合段部

\* 25 板バネ  
25a 先端部  
26 基部板  
27 下部板  
28 凸部  
29 解除装置  
30 カバー部  
30a 長孔  
30b 孔  
\*10 31 突起部

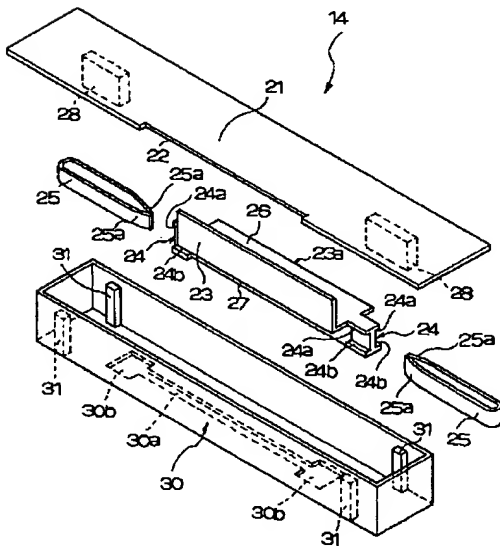
【図1】



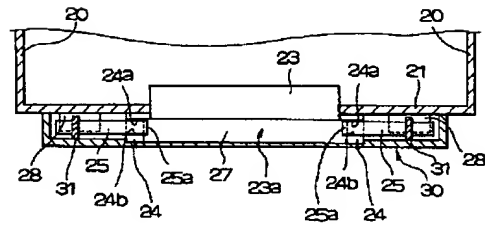
【図2】



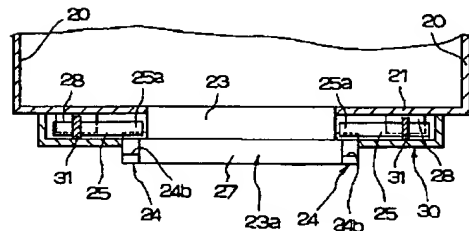
【図3】



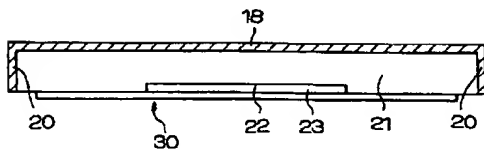
【図4】



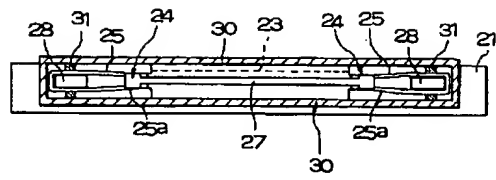
【図5】



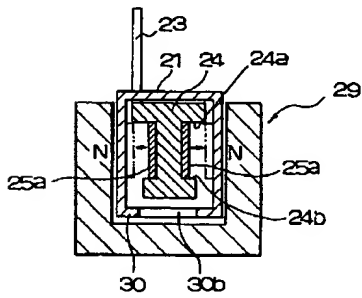
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

